

カニの分布（七北田川河口域）

■七北田川河口域のカニの分布

先月に引き続きカニの分布を中心に調査を行った。今回の調査では、七北田川河口域(Fig. 1)を中心に分布を確認したが、七北田川の河口と導流堤の間には砂地が広がり、コメツキガニの摂餌痕が前回の調査より広がっていた(Fig. 2)。

Fig. 1の赤色で囲んだ部分には湿地とヨシ原が広がり、アシハラガニの巣穴(Fig. 3)が観察された。ただし、同所でこれまで観察されていたチゴガニ、ヤマトオサガニは見られなかった。この2種のカニは砂地よりも、より湿った泥地を好むカニである。

この地域は、2012年と比較して乾燥しているように思われる(レポートNo40参照)。国土地理院のデータによると、東北地方太平洋沖地震で沈降した地盤は、2011年3月12日を基準として今年の2月までに牡鹿半島で38.9cm、矢本で31.6cm、福島県の相馬で17.5cm隆起している。矢本と相馬の間に位置する蒲生干潟でも、同様に隆起していることは十分考えられる。



(Fig.1 七北田川河口域)



(Fig.2 コメツキガニの摂餌痕)



(Fig.3 アシハラガニの巣穴)



(Fig.4 堆積した砂)

■大量の砂の堆積

先月の調査では、導流堤の低い部分に砂が堆積し、干潟への水の出入りが阻害されている状況を確認したが、今月はさらに多くの砂が堆積していた。Fig. 4はFig. 1の▼から撮影した写真であるがFig. 1の□の部分に広く砂が堆積している。2011年の夏に大量に砂が堆積したことがあった(レポートNo13, 16, 18, 19参照)が、今後の変化を注視していきたい。